



ハミング通信 011号

いつもご利用いただきありがとうございます。今回は、ますます加熱するアメリカのオーガニックブームについてご紹介します。実は去年、「10年前とまったく違う」という、オーガニックで盛り上がっているアメリカへ視察に行こうと、チケットもホテルも手配していましたが、直前でアクシデントがあって延期。今回、やっと念願叶ってアメリカに行くことができました。いま、空前絶後のオーガニックブームに沸くアメリカ。オーガニック普及率 0.2%の日本に対して、「すでにオーガニックが日常化している」と言われているアメリカですから、実際に現地で、その違いを肌で感じると、ものすごいカルチャーショックでした。



有名なオーガニックのスーパーマーケット「ホールフーズ」なんかに行くと、ここはオーガニックの天国？と思わずにはいられないくらい。フルーツも野菜も、加工品も、お店の中がほぼ全部オーガニックで揃っています。食材へのこだわりが徹底していて、日本のように、原材料を確認するために、商品裏の一括表示の記載をいちいちチェックする必要がありませんから、安心して買い物ができます。いまや、セブやエグゼクティブならオーガニックは必須！といってもいいくらいです。ただ、自然栽培くらいの徹底したこだわりを求めるなら、

アメリカのビジネスサイズや合理的なシステムには合わないため、農薬も肥料もゼロ！硝酸態窒素の数値も気になる！といった究極のこだわりを求めるなら、ファーマーズマーケットなどに出向いて、個別にそうした農家さんを探さないといけないよ、とオーガニックファンの女性がこっそり教えてくれました。一方、アメリカには、オーガニックのスーパーマーケットのほかに、対極的な●●●マートのような大型の格安店もあります。店中に入ると徹底的に「質より量」で安価な商品が並んでいて、そこはオーガニックとはまるで無縁の世界です。カラフルなパッケージで添加物多めの商品が並び、あきらかにターゲットが違うという、企業側の戦略の違いが見てとれます。そこでお客様を見ていて気になったことがあります。オーガニック店には、まるでセレブ、まるでハリウッド女優！のような、スリムでかっこいいお客さんばかりだったのに、こちらのお店には肥満で歩くのも精一杯といった、20年前によく見たアメリカ人がとても目につきます。この頃のアメリカ人は肥満だらけでした。今、アメリカでは医療費が驚くほど高騰して、病気になっても簡単に払える金額じゃないため、ますますヘルシーブームが盛り上がっているそうです。自己責任の国なんですね。ヘルシーブームで関連本も沢山でているせいか、健康に関する国民の知識もすごく豊富です。禁煙ブームもそうでしたが、一度決めたら、徹底的にこだわる国民ですから、このままでは2020年の東京オリンピックの時、日本にきた世界中のセレブたちが、「日本には我々の食べるものがない！」と言い出して大きな問題になるかもしれません。日本にいと想像すらできないかもしれませんが、もうオーガニックレベルは当たり前、NON-GMO、Rawの表示もすごく多いです。タマゴも平飼い、抗生物質不使用が一般化、お肉なんかも、ちらほらGrass-fed beefなんかも目にするがあります。そういうものじゃないと食べない・買わない人たちです。せっかく楽しみに訪れた日本なのに、日本のレストランに行っても、スーパーマーケットに行っても、最低限のレベルにすら達していないモノなら、何も食べられません。例えば、有名なお寿司屋さんに行ったけど、農薬栽培のお米しかなくて食べられなかった。そんなケースが続出するのではないのでしょうか。農薬の使用量が世界で最も多い国、日本。そんなこれまでの日本のスタンダードがこれから世界に通じない、食の世界でもガラパゴス化がおこっているように感じます。ちょっと意地悪な表現を使うなら、もうすでに何周も遅れてしまっている！そんな気がしました。先進国なのに食材はこのレベル！これって今後の日本の大きな課題じゃないかと思うんです。でも、これからの日本の農業は、こういう実態をチャンスと捉える農家さんや、熱い志をもった若い方たちがどんどん出てきて「もっと世界に追いつけ、追い越せ」という気運で躍進してくれると思うんです。僕らも皆さんと一緒に、GO BEYOND ORGANIC! なかなか悩ましい遺伝子組み換え肥料の問題や、地下水汚染の問題まで考えて、日本発の先端農業技術、自然栽培で世界の先を行きましょう。今年、日本では皆さんのおかげで、たくさんの新しい農家さんが自然栽培をスタートさせています。これからは世界に誇る、自然栽培の安心でおいしい食材、ぜひご期待ください！